

学科の歩み～英語英文学科

学科の概要

英語英文学科の歴史は、岐阜女子専門学校創立当初の「英文科」から始まりました。昭和 44 年度 (1969 年度) に「英文学科」、平成 12 年度 (2000 年度) に「英語英文学科」へと名称を改め、現在に至ります。開学当初から続く伝統を受け継ぎながら、時代の要請に対応したカリキュラム改革や新しい取り組みをこれまでしてきました。

実用的な英語力がますます強く求められる時代の流れを受けて、実用英語科目の充実を図ってきました。早い時期からネイティブの専任教員をスタッフに迎え、実際に海外での生活を体験する「海外英語演習」を平成 3 年度 (1991 年度) から毎年実施し、最新の CALL 教室 (右側写真) をフルに活用した授業を展開するなどの取り組みを中心に、実社会で使える英語力の養成に力を注いでいます。

英語英文学科では、「英語学」や「英米文学」などの英語に関連する学問分野についての知識を得ることも、実用的な英語力を身につけると同様に大切であると考えています。これらの学問を通して、英語という言語そのものや、その背景にある文化を多面的に学ぶことで初めて、深い教養に裏打ちされた英語コミュニケーション能力が身につくと考えているからです。

幸いなことに、これらの取り組みが社会から高く評価され、これまでに多くの卒業生が社会の様々な場面で活躍しています。これからも、豊かな教養を修得するとともに高い語学力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる自立した女性を全力で育成し続け、地域に貢献していきます。



学科の歩み

●海外英語演習

英語英文学科では、毎年夏休み期間に「海外英語演習」を実施しています。第 1 回目は、平成 3 年度 (1991 年度) に実施され、内容はアメリカ合衆国オハイオ州シンシナティ市でのホームステイと語学学校というものでした。トマス・モア大学 (ケンタッキー州)、カピオラニ・カレッジ (ハワイ州) を経て、平成 17 年度以降はカリフォルニア州立大学サンマルコス校で実施しています。



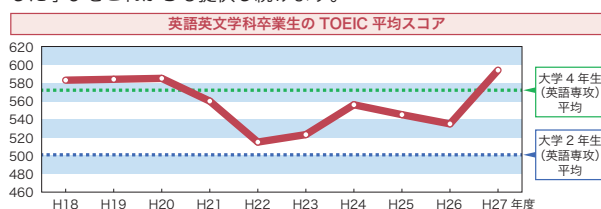
●岐阜市内&鵜飼研修

1 年次必修科目「教養演習」の一環として、毎年岐阜市内と鵜飼を見学し、その成果をレポートにまとめています。真の国際人になるための第一歩は地元を知ることだとの考えから、この研修を毎年実施しています。岐阜市出身の学生も市外出身の学生も積極的に岐阜市内を散策し、岐阜市の新たな魅力を発見し、英語と日本語でレポートをまとめています。



●2年間の成果：TOEIC スコア

授業内外での勉強などを通じて、英語英文学科の学生は英語力を着実に伸ばしています。過去 10 年における卒業時の TOEIC 平均スコアは毎年 500 を超えています。これは、平成 26 年度の英語専攻である大学 2 年生の平均スコアよりも高い数字です。また、平均が 580 を超えた年度もあり、この成果は、同大学 4 年生の平均スコアよりも高い数字です。岐女短英語英文学科は、四年制大学に引けを取らない充実した学びをこれからも提供し続けます。



●学科の伝統：編入学を志す学生達

英語英文学科での学びで大きく成長した学生たちは様々な道へと進みます。就職者が最も多く、留学する者もいます。近年特に目立つのは四年制大学の 3 年次編入学をする卒業生達です。毎年 3 割前後の学生が編入学を志し、名古屋大学、岐阜大学、名古屋市立大学、南山大学などの国公立大学に多数の進学者を輩出しています。これらの学生達の真摯に勉強に取り組む姿勢が他の学生にも良い影響を与え、学科全体が真剣に勉強に取り組む雰囲気に包まれています。



学科の歩み～国際文化学科

学科の概要

国際文化学科では、世界の多様な文化や価値観を理解した豊かな国際感覚、円滑なコミュニケーションに必要な言語運用能力、高度情報化社会に対応できる情報処理能力を養います。国際文化学科の柱は、「文化」、「言語」、および「情報」です。

「文化」の授業では、日本をはじめアジアや欧米の文化について学びます。現代国際社会における諸問題の背景には文化や価値観などの相違があり、私たちは自己を知ったうえで、他者を尊重するためにはどうすればよいかを考える必要があります。

「言語」の授業では、国際的な意思疎通と相互理解のために、英語はもちろん中国語や韓国語を習得します。外国語の適切な習得には母国語を正しく扱えることが基盤となるため、日本語運用能力をさらに向上させる授業も設けています。

「情報」の授業では、コンピュータによる情報処理の基礎から発展まで、きめ細やかで丁寧な授業を展開しています。学生達は情報処理能力を着実に身につけ、社会で役立つ様々な資格を取得しています。

国際交流の実践的活動としてアメリカ・中国・韓国で実施している海外研修では、現地の大学でその国の言語を学ぶとともに、現地の学生との交流活動などを行います。授業で学んだ外国語を実際に使ってコミュニケーションをとり、異文化を肌で感じる貴重な経験となります。高い意欲を持つ学生のため、中国と韓国の大学で1年間学ぶ交換留学制度も設けています。交換留学を経験した学生は、積極性などの内面的な成長とともに、語学力もめざましく上達します。



学科の歩み

●学科の設立

国際文化学科は、平成 12 年の現キャンパスへの移転と同時に新設されました。それまで教養教育を担ってきた教員達を中心として、国際化・情報化の進む新たな時代に対応すべくスタートしました。開設後はとりわけ、歴史的にも日本と関係の深い近隣アジアに重点を置くようになっていきました。より充実した少人数教育を目指して設立と同時に開始した「アドバイザー制度（学生数名毎に支援教員をおく制度）」は、現在も学科の特徴となっています。



●国際交流活動

国際文化学科の設立から間もなく、米国ブラックヒルズ州立大学および韓国威徳大学と学術交流協定を結び、両大学への短期集中型の言語文化研修を開始しました。平成 16 年には、提携大学の教員を招いて創立 5 周年を記念した国際シンポジウムを開催し、さらに、中国浙江工業大学とも学術交流協定を結んで中国への言語文化研修もスタートさせました。「国際」の名に値する実質的な取り組みは、学科設立当初から現在まで絶え間なく続けられています。



●制度の充実化

国際文化学科では、平成 25 年度から中国大連大学および韓国威徳大学と学生を相互に 1 年間派遣する交換留学制度を開始し、平成 28 年度からは中国吉林華僑外国語学院とも同じ制度を開始しました。平成 29 年度からは卒業生が台湾の長栄大学に編入学できる制度もスタートします。このように国際文化学科では、語学や異文化の実践的な学びの機会を、短期間の海外研修に加えて国外長期滞在からも得られるよう、制度を充実させてきました。



●学科の現在とこれから

現在も国際文化学科では、コミュニケーションのための言語（英語・中国語・韓国語）、その言語が使われている社会と文化、さらに現代のコミュニケーション手段として重要なコンピュータを使った情報処理の授業に力を入れています。とりわけ短期大学でありながら交換留学制度をもつなど、中国および韓国関係については四年制大学にも劣らない教育内容を整えています。昨今の政治情勢によらず、中国や韓国との交流を担う大学を目指しています。



学科の歩み～食物栄養学科

学科の概要

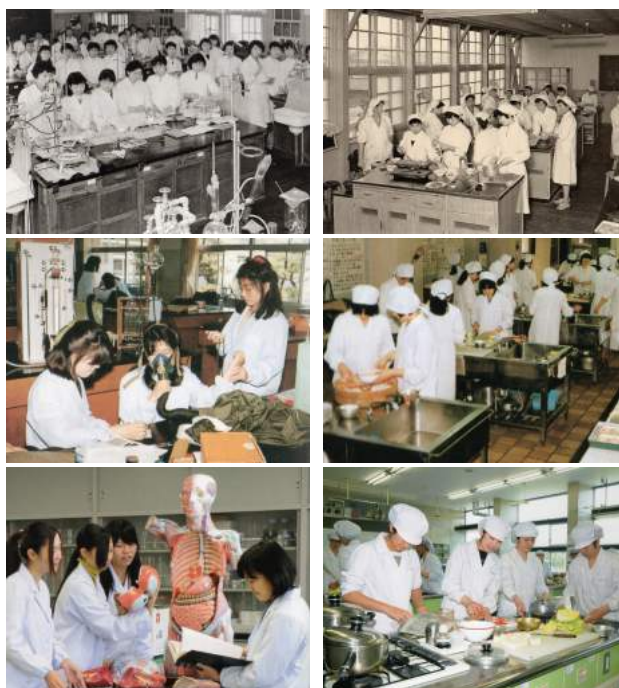
●食物栄養学科の教育理念

食物栄養学科の教育目標は、「健康の保持増進に役立つ幅広い視野と科学性に富む人材育成」です。授業では、栄養や食生活の面から健康について学ぶばかりでなく、人体の構造と機能、食品と衛生、各種疾病の予防や食事療法、栄養の指導、給食の運営に至るまで幅広い分野を系統的に学びます。これらの分野の実験・実習・演習科目を通して専門知識・技能のみならず、協調性やコミュニケーション力など、社会に必要とされる能力の向上を目指しています。また、少人数教育を行うことにより、学生にきめ細やかな学びの環境を整えています。

●食物栄養学科の構成とカリキュラム

本学科は昭和 25 年 2 月に栄養士養成施設として認可されて以来、それぞれの時代のニーズに合う栄養士養成に尽力してきました。現在のカリキュラムは、短期大学としての各学科共通の教養教育科目と食に関する専門教育科目を履修します。専門教育科目は「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」の 6 つの柱を中心に構成されています。

本学科では、上記以外に独自科目も設定しています。1 年前期では高校で化学を履修しなかった学生向けに「基礎実験化学」を開講し、基礎力の充実を図っています。1 年後期の「栄養士特論」では、管理栄養士を多数講師陣に迎え、実際の栄養士の仕事内容について理解を深めます。2 年次には全員が「卒業研究」を履修し、これまでの学びの中から興味を持ったテーマについて 1 年を通してまとめていきます。



【実験風景の変遷】

【実習風景の変遷】

学科の歩み

●第一幕（昭和 25 年度～平成元年度）

食物栄養学科は本学創設時に「保健科」として発足し、「生活科」に改められ、昭和 25 年 2 月に栄養士養成施設の指定を受けました。昭和 27 年には中学校二級免許状、高等学校家庭科免許状資格が認可されました。昭和 30 年代には栄養士の社会的ニーズが高まり、県下で唯一の養成施設であった本学科は志願者が急増したため、昭和 34 年度に定員 50 名から 80 名に変更しました。当時のカリキュラムの特徴は実験・実習科目とその単位数の充実でした。



●第二幕（平成 2 年度～平成 11 年度）

平成 2 年から「食品栄養」「保健栄養」の 2 クラス制を取り、食品栄養クラスは企業の研究開発・品質管理等の業務で活躍できることを重点に、保健栄養クラスは高齢社会のニーズを念頭に健康増進・疾病予防に高度の専門性を備えた栄養士養成を目指しました。平成 3 年に他学科に先駆けて推薦入試を実施、平成 6 年から他大学との編入学協定を行い四大志望の学生に応えました。平成 7 年にはパソコンでの栄養情報処理を導入し、時代の先端を行く栄養士教育として注目されました。



●第三幕（平成 12 年度～平成 21 年度）

平成 12 年 4 月には、岐阜城を望んだ長良福光キャンパスから現在の一日市場北町へキャンパスを移転しました。この移転と同時に入学定員をこれまでの 80 名から 60 名に変更し、1 クラス 30 人の 2 クラス制を敷くことで少人数教育を実現させました。この教育効果もあって、入学生のほぼ全員が栄養士資格を取得して卒業しました。また、平成 18 年に実施された岐阜スローフードコンテストでは、準グランプリを獲得するなど、対外的にも実績を上げました。



●第四幕（平成 22 年度～平成 28 年度）

平成 28 年度には、前身校から数えて 70 周年を迎えました。今年度は、大学基準協会による第 2 回目の認証評価を受けている最中です。この認証評価を受けるに当たり、食物栄養学科では、これまでの教育目標をさらに明確化するとともに、学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）、学位授与方針（ディプロマポリシー）という 3 つの方針を整備し、現在、大学の内外に公開中です。



学科の歩み～生活デザイン学科

学科の概要

●生活デザイン学科の教育理念

生活デザイン学科は、人間が生活している空間と、それに関連する事物のデザインを追求する学科です。デザインという概念は単に「ものづくりに関わる計画や意匠」だけではなく、人間が生きていく上で必要な創造的思考、智慧、哲学にも通じています。

本学科では、幅広い内容の講義や実習・演習・実験を実施することによって、「ものづくり」と「智慧」を修得した「専門性を有する教養人」「教養を有する専門家」の輩出を目指しています。

●生活デザイン学科の構成とカリキュラム

生活デザイン学科では、学科を構成する3つの柱として、ファッション専修、建築・インテリア専修、ヴィジュアル専修の3専修を設置しています。本学科では、デザイン分野の違いに関わらず必要不可欠な基礎として「知識・技術・思考・感性」の4つの柱を重視しています。これらの基礎を修得することによって、デザイン制作において極めて重要となる「発想・表現・伝達」の能力が磨かれます。本学科ではデザイン全般を幅広く網羅した基礎科目によって基礎能力を十分に高め、その上でそれぞれの専門分野について実践的に学びます。さらに、基礎能力と専門能力を備えた上で、発展的な内容である「展開科目」に取り組むことによって、自分の専門分野を軸とした他分野との関わりについて学び、横断的な価値観と総合的な能力を身につけることも視野に入れています。



学科の歩み

●被服科から生活デザイン学科へ

本学創立時に発足した「岐阜女子専門学校 被服科」が、現在の生活デザイン学科の前身です。その後、幾度かの改組を行う中で、研究・教育対象を被服分野から「生活の中のデザイン全般」へと拡大させ、2000年のキャンパス移転を機に学科名称を「生活デザイン学科」に変更しました。その後も、空間を学ぶ建築・インテリア分野や視覚表現を学ぶヴィジュアル分野の新設・拡充など、時代のニーズに応えた組織体制の変革に意欲的に取り組んでいます。



●特色ある大学教育支援プログラム

生活デザイン学科で行っている実践的で多彩な教育が、2003年度に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。応募総数664件、採択倍率8.3倍の難関を突破し、全国の公立短期大学の中で唯一の採択となりました。

これまでに生活デザイン学科が積み上げてきた着実な実績を評価し、さらに視野を広げて今後も特色ある教育を実践することを期待して、文部科学省の採択があったものと考えています。



●衣料管理士資格認定／一級建築士受験資格認定

生活デザイン学科では、高等教育機関における資格認定の必要性をいち早く認識し、そのための体制づくりに尽力してきました。1982年には公立短期大学として全国3番目となる衣料管理士資格認定校となり、アパレル産業や検査機関などに多数の人材を輩出してきました。また2009年には、短期大学として数少ない一級建築士受験資格への対応カリキュラムを整備し、建築・インテリア業界の第一線で活躍する人材の育成に貢献しています。



●産官学連携事業による地域貢献

本学科では、公立の高等教育機関として「デザインによる地域貢献」を重要な取り組みの一つと位置づけています。そこで「学生を育てる／地域を育てる」という理念の元、産官と連携して特色豊かな活動を展開しています。近年の主な活動として「産学連携事業・翔工房」「景観ワークショップ・テニテオ」「岐阜市民病院小児病棟・壁画制作」などが挙げられます。これらの活動は新聞やテレビなど各種メディアでも取り上げられ、注目を集めています。

